

物部川清流保全推進協議会部会「ゴミ対策を進めるWG」要旨(第4回)

日 時： 平成23年10月5日(水) 13:30~15:30

場 所： 南国市役所4階 大会議室(南国市大塚甲2301)

内 容：

1. 事務局より、前回(3回目)及び平成23年度物部川清流保全推進協議会総会の議事要旨の説明。
2. 配布資料「物部川流域での清掃活動」により、平成23年度に各団体が行う清掃行事の計画を確認。
3. (一斉清掃の日を制定することについてはWG参加団体の意思確認ができていることをベースに一斉清掃の日をいつにするか、意見交換を行った。

・事務局より、仁淀川の事例を説明した。

[H23から、国交省が行うラブリバーパートナーシップの取組にあわせて10月24日を「仁淀川・環境の日」とし、前後の土曜日に仁淀川流域全体で一斉清掃を実施することとなった。]

・例年9月には「舟入川ウォーキング」があり、今年は大人80人ほどが川沿いを歩きながらゴミを拾った。

・一斉清掃の日で拾いたいゴミは何か(流木?生活ゴミ?その他?)。一斉清掃の日を制定する目的は何か。それによって日の設定も変わってくると思う。

・一斉清掃によって直接的にゴミをなくすことはもとより、一斉清掃を通じて住民が川に親しみ、清流保全の意識を高めることが目的ではないだろうか。

・物部川にあるゴミがどこからくるのか、夏場のレジャーのゴミなのか、大雨の後の出水で流れてきたゴミなのかなど、ゴミの由来を考えて啓発につなげるのはどうか。

・ごみのない物部川をつくる連絡会では、ゴミを拾った後で「物部川方式」としてゴミを6種類に分別をして、ゴミの原因を探る活動を既に行っている。以前の物部川では農業で使った後の肥料袋が大量のゴミとなっており、物部川方式の分別によってそのことを知ったJA土佐香美が組織として清掃活動に取り組み始め、現在ではJAは物部川の清流保全にはなくてはならない力になったという好例もある。重要なのは、ゴミの問題に関係する人に気づいてもらうことだ。

・川の中に沈んでいるゴミなど、住民レベルではどうしようもないゴミもある。

・他の河川では釣り人が漁場に残した弁当のゴミが散乱していることもある。

・上流にいけば不法投棄なども目に付くが、地権者の問題もあって解決が難しい。

・一斉清掃は、多くの世代が集まることができて、安全で、程々にゴミのある時期がいいのではないか。(ゴミがないことがもちろん良いが。)

・拾ったゴミをその場で焚き火にするなどすれば処分場の負担も減らすことができる。ゴミをただ拾うだけではない仕掛けもあれば良い。

・ゴミを拾うことと処理することは表裏一体で、処分には行政も負担を伴うこととなるが、物部川には流域3市で組織する「物部川流域ふるさと交流推進協議会」がバックアップ体制として既にある。このことを生かして取組を進めてはどうか。「物部川流域ふるさと交流推進協議会」の都合を確かめてほしい。

・ごみのない連絡会では同じ日に複数の地点でゴミを拾うということをしたことがないので、一斉清掃

でそうしたことが実現できるといいと思う。また、直接ゴミを拾わなくても、例えば山に行ってゴミの現状を見て地域の方に気づいてもらい、次の機会に行動に移すということでもよいと思う。

- (一斉清掃の実施時期について) J Aとしては、職員が参加するには土日が良い。組合員は周年通して忙しいので、いつなら参加しやすいという時期は特にならない。
- (一斉清掃の実施時期について) 南国市環境課では、4～5月は環境委員を対象にした説明会への対応に追われる時期のため外してほしい。実施案として、国交省が7月に実施する河川愛護月間と連動した取組はどうか。
- 物部川ではいろんな取組をやっているにも関わらず、市民レベルでは取組がほとんど知られていないと思う。マスコミにも協力してもらおうなどして、広報・啓発にもっと力を入れてはどうか。

まとめ

- ◆ **次回WGでは、事務局から具体の実施案を提示することとした。**